

◇ 国 語

国 1-1～国 1-16 まで 16 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

子どもの行動形態には、そのときどきの社会の価値観、空気、流行、文化といったものが如実に表れるものだ。

たとえば、三〇年、四〇年前の子どものいまの子どもを比較すると、その行動形態にさまざまな違いが認められる。先日、四〇代後半の男性の知人が、小学校低学年の自分の子どもを見てみると、そんなことを痛切に感じると漏らしていた。

なかでも、子どもたちが友だちの家に行くとき必ずお菓子を持参していくことに驚いたという。それは、自分が食べるマイお菓子というわけではなく、訪問する家への配慮からそうするのだそうだ。ちよつとしたおみやげのようなものである。

もちろん、それは子どもの自発的な意思ではなく、親が子どもに持たせているわけだ。だから、母親が働いている子どもは、何も持参しないで友だちの家に行くことになる。すると、その晩になって、その子の母親から「今日は家の子が突然お邪魔しましてすみません。お菓子までご馳走になって……」とわざわざお礼の電話がかかってくるらしい。

子どもが友だちの家に行くのに、親がまるで自分が行くかのようにものすごく気遣いをするようだ。

そんな気遣いをしなくてはいけないせい、最近の親はどうやら家に子どもの友だちが遊びに来るのをあまり快く思わないようだ、その知人は話した。親のそんな気持ちを感じ取ってなのか、子ども同士でお互いの家に気安く遊びに行ったりすることが本当に少ないらしい。さらに、いまの子どもは、お稽古事が非常に多いので、なおさら友だちと放課後に遊ばないのだそうだ。

知人は「僕が子どものころとそこがまったく違う」という。私も、昔はそんな気遣いをどこの親もあまりすることがなかったような気がする。子ども同士取り立てて約束もせず、遊びたくなったら友だちの家を訪ね、呼び鈴を押すこともよくあったし、遊びに行った先の親もいつものことなので、いちいち気を遣って子どもにお菓子を出してくれることも少なかった。私は田舎で育ったこともあって、気の向くまま、友だちの家や公園や原っぱで遊び回って、日が暮れたら家に帰るといふ毎日だった。

「昔はみな習い事もそんなにしていなかったし、学校が終わって家に帰るまではほとんど野放し状態だった」と知人は懐かしそうに語っていたが、昔と比べて子どもに対する親の管理もかなりきつくなってきているのではないだろうか。

いまは子どもが公園で遊んでいたら、近隣から「うるさい」と苦情が来る時代。家庭も含めて社会全体がぎすぎすして、余裕

がなくなっている。昔はモンスターペアレンツなんていなかったし、人間がいまと比べて大らかだったと思う。

それにしても、社会から鷹揚おうようさが失われてしまったのはなぜなのだろうか？

一つには、社会全体が経済合理的な価値観で覆われてしまったために、ムダとか遊びといったものが、どちらかというところの価値観でとらえられるようになったせいだろう。また、個人主義的な考え方が広まり、権利意識ばかりが妙に強くなったことも一因だろう。

だがそれだけではない。意外と見落とされているが、「気遣い」の副作用ではないだろうか。気遣いを強いられる社会のあり方が、社会の余裕のなさをもたらしているように見受けられる。

「おもてなし」が典型だが、日本人は ア に気遣いの生活文化というものを持っている。子どもが友だちの家に遊びに行くときお菓子を持参するという話からもわかるように、日本人はかなり人に気を遣う。

人に気をくばること自体はもちろん悪いことではない。しかし、気遣いが行きすぎているとしたら、それはどうだろうか？

体にいい運動でも、健康にいい食事でも、それがすぎればマイナスになるのと同様に、いいこととされる考え方や心の持ち方も行きすぎればマイナスになることがある。いまの日本人は気遣いが行きすぎて、それがマイナスに作用しているのではないだろうか。

気遣いもカジカジョウウになれば、他人に対して寛容さが失われたり、人間関係に不必要に神経過敏になったりする。子どもが友だちの家にあまり遊びに行かないのも、公園で遊ぶ子どもの声が苦情の対象になるのも、そのタンタテキキな表れのように思われるのである。

いまから思えばちよつと思議だが、三〇年ほど前に当時NHKのアナウンサーだった男性が『気くばりのすすめ』という本を書き、一大ベストセラーになったことがあった。そのとき著者が、日本人に他人への思いやりや優しさがなくなってきたことを感じて本を書いたと語っていたような記憶がある。

だが、それは日本人が本当に気くばりのできない人間になったということではないだろう。おそらく気くばりの質が変わったのだ。気くばりというのは本来、相手のことを考えてするものなのに、自分が相手からどう見られるかをまず優先的に考えるよ

うな形だけのものになってきていることに、この著者は気づいていたのではないか。

表面的なだけの気くばりは、何よりも自分にトラブルが及ばないようにするための自己ボウエイである。さらに、いい人に思われたという自己愛や仕事上の利得もしばしばからんでいる。

日本人が **イ** 主義的な生き方をするようになるにつれて、そういう劣化した気くばり、気遣いの技術といったものが **広まった**のではないか。

思いやりや優しさのこもった気遣いであれば、人と人との感情的な距離はぐんと近くなるはずだ。だが、現実はその逆だ。空気を読まない人のことをKYと揶揄するほど、みな互いに気を遣っているはずなのに、社会は寂しい人であふれ、孤独病の人はますます増えている。それは自分のためにやっている形だけの気遣いや気くばりばかりだからであり、かえって人と人との距離を遠ざけているのである。

気遣いとか、気くばりというものに対して、ほとんどの人は何の疑いもなくよいものと思いついでいる。本当はどんな気持ちで気遣いや気くばりをしているのかをじっくり観察してみるべきなのに。

自分を守り、自分に利益をもたらすための気遣いばかりが蔓延する社会こそ、孤独病に **ハクシヤ** をかけているのではないだろうか。

「情けは人のためならず」ということわざがある。情けを人にかけてとその人のためにならないと誤解している人も少なくないようだ。正しくは、情けをかけると回り回っていずれ自分によい報いが返ってくるので誰にでも親切にしておいたほうがよい、という意味である。

私は「情けは人のためならず」ということを多くの人が実践すれば、この孤独社会における孤独の度合いがいくらか弱まるのではないかと思っている。

このようなことわざは人に善行を促すため、**コウミョウ** につくられた道徳の一種ではないかと疑う人もいるだろう。

しかし、よく考えると、非常に **ウ** な発想から生まれた言葉であることがわかる。実際、利己的な行為に走りすぎると、最終的にはその人は大きな損をする可能性が高いからだ。エゴの強い人は自分の得になると思ってそう振る舞うのだが、長

い目で見るとマイナスの方が大きくなるものだ。だが、当の本人はそのことになかなか気づかない。

仏文学者の鹿島茂さんは『幸福の条件』（潮出版社）という著書のなかで、自分の利益と道徳との関係についてこんな例を出して説明されている。

電車に乗るときには普通整列乗車をする。じつは、これがもつともストレスなく座れる確率が高い方法なのだ。もし自分だけ座れさえすればいいと、みながエゴイステイクな行動をとればどうなるだろうか。その場合は列をつくらず、電車が来たら割り込んだり、人を押しのかたりしながら力づくで乗り込むことになる。だが、こんなことを毎回やっていると乗るたびに激しく消耗してしまう。これではたまたに座れたとしても、得な乗車方法とはいえないだろう。つまり、みんながもつとも気持ちよく座れる確率が高いのが、整列乗車をして乗る方法ということになる。

整列乗車は、道徳的に好ましいからそうしているという以前に、全員の得になる確率ももつとも高い合理的な方法だから選択されているわけである。

「情けは人のためならず」の考え方もこれと同じである。自分の利益を最大化するには、他人の利益も同時にはからないといけないということだ。たとえば、自分が一〇〇の得をしようと思つて毎回行動すれば、結果的には平均すると一〇〇どころか四〇くらいの得になってしまうかもしれない。しかし、一〇〇のうちの三〇の得をいつも他人に譲るようにしていれば、結果的には平均七〇の得をするというのが、「情けは人のためならず」の真意なのだ。

つまり、利益を長期にわたつて最大化するには、自分の目先の利益ばかりを計算してはならず、他人の利益にもバランスよく目くばりしなくてはいけないというわけである。

（片田珠美『孤独病 寂しい日本人の正体』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A カジヨウ

- ①互いにジヨウホする
- ②ジヨウヨ物資を分ける
- ③ビンジヨウ値上げる
- ④ジヨウマンな文章
- ⑤酒をジヨウセイする

1

B タンテキ

- ①イタン者とみなされる
- ②エイタンの意を表す
- ③タンラク的な考え
- ④タンジユン明快な答え
- ⑤土地をタンポに入れる

2

C ボウエイ

- ①新進キエイの学者
- ②写真をサツエイする
- ③国家がハンエイする
- ④気象エイセイによる観測
- ⑤エイギョウ中の店

3

D ハクシャ

- ①ケイハクな人間
- ②ハクネツした試合
- ③ハクシユで出迎える
- ④シユクハク施設に着く
- ⑤ハクアイ精神を持つ

4

E コウミョウ

- ①約束をリコウする
- ②カコウ食品を買う
- ③ソツコウ性のある薬
- ④実験がセイコウする
- ⑤作品の Kou セツ

5

問二 空欄 ア・イ・ウ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア ①観念的 ②伝統的 ③表面的 6

イ ①虚無 ②社会 ③自然 7

ウ ①合理的 ②献身的 ③排他的 8

④革命的 ⑤偽善的

問三 傍線部（a）「如実に表れる」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

9

- ①実情とは異なる形をとって反映されるということ
- ②実際よりも誇張された形で反映されるということ
- ③現実即してありのままに反映されるということ
- ④実にさりげなく徐々に反映されるということ

問四 傍線部（b）「蔓延する」の用例として誤っているものを、次の①～④の中から一つ選べ。

10

- ①庭一面に蔓延している雑草を、家族全員で引き抜くことにした。
- ②昨年の冬には新型のインフルエンザが蔓延し、学級閉鎖が相次いだ。
- ③成果を出すためには手段を選ばないという風潮が社会に蔓延しつつある。
- ④ガンの早期発見キャンペーンが蔓延したことで、受診率が増加した。

問五 傍線部（c）「情けを人にかけるとその人のためにならない」とあるが、そうした意味を表すことわざとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

11

- ①涙の裏に情け
- ②情けが鬼を呼ぶ
- ③情けは毒に通ず
- ④情けが仇
- ⑤情け受ければ地獄を見る

問六 傍線部（二）「子どもたちが友だちの家に行くとき必ずお菓子を持参していくことに驚いた」とあるが、筆者の知人がどのように感じたのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

①自分の幼少期には、自分用のお菓子を友だちの家へ持っていくことはあっても、おみやげとしてのお菓子を持参することはまずなかったから。

②自分の幼少期には、子ども同士が気の向くままに友達の家を訪れることが多く、親が子どもの訪問先に配慮することもなかったから。

③自分の幼少期には、訪問先の親がお菓子を出してくれることの方が多く、自分たちの方からそれを持っていくことはめったになかったから。

④自分の幼少期には、親同士が気遣いすることはあたり前だったが、子どもが率先してお菓子を訪問先に持参する習慣はなかったから。

問七 傍線部（二）「劣化した気くばり、気遣いの技術といったものが広まった」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

①現在の日本では、様々な場面で気遣いが求められるが、その際、相手を思う気持ちをそれとわかるように大げさに伝えようとすると傾向が強まってきているということ

②他者への気遣いは日本人ならではの美德であるが、それが行き過ぎると精神的な負担になることもあるため、意図的にそうした行動を抑えようとする風潮が生じてきたということ

③日本では他者への思いやりを重視する文化があるが、孤独な人間が増えてきたことによって、かつてのような優しさにあふれた気くばりや、気遣いが見られなくなったということ

④かつての日本では、思いやりや優しさから他者への気遣いがなされていたが、近年ではそれが、自分の得を重視する打算的な行動へと変質してしまったということ

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

14

- ①『氣くばりのすすめ』という本がベストセラーになったのは、当時の読者が氣くばりの形骸化に氣づき始めていたためである。
- ②多くの日本人は「氣くばり」を良いものと信じているが、その行動の裏にこういった気持ちがあるかについてはさほど問題にしない。
- ③仏文学者の鹿島茂は、自分の利益と道徳との関係を例として、日本固有の文化である整列乗車の心理的メカニズムを賛美した。
- ④多くの日本人は利己的な行為が往々にして不利益を呼ぶこともあると知りながら、エゴイズムの暴走を制御しきれずにいる。
- ⑤現代人は多忙のあまり心のゆとりを失いがちであり、そのことが社会全体の余裕を失わせる大きな要因になっている。

問九 この文章の主題として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

15

- ①子ども社会における気遣いの変遷
- ②「情けは人のためならず」の功罪
- ③エゴイズムと経済利益の関係性
- ④他者への思いやりが生む効用
- ⑤現代日本の孤独病とその多様性

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

だれでも知っているとおり、コオロギはオスだけが鳴く。鳴きかたは種によってきまっており、耳のいい人なら、鳴き声だけでもなんとこの種のコオロギかを聞きわけることができる。

昔、日本にはオカメコオロギという種が知られていた。ところが松浦一郎さんというオンキョウ^A学の研究者で、コオロギのことも並々ならぬ関心をもっていた人が、その鳴き声をきいてみると、どうしても三つのちがうタイプにわけられることがわかった。しかも、その三つのタイプは、入りまじっているのではなく、住み場を異にしているのである。松浦さんは、それまで一種とされていたオカメコオロギを、タンポノオカメ、モリノオカメ、ハラノオカメの三種に分けた。この三種は形の上ではほとんど区別できぬほどよく似ているが、やはりまったくべつべつの種だといわれている。

こう聞くと、なんだか日本ではどこにいてもオカメばかりいるような気がするが、この話はコオロギの鳴き声が、コオロギ同士のオス、メスのニンチ^Bにいかにか重要なものかを知らせてくれる。アメリカのコオロギについても、同じような話がある。コオロギのオスが鳴いていると、近くににいるメスは耳ざとくその声をキャッチする。コオロギはオス、メスとも耳をもっているが、それはとんでもないところについている。

コオロギの鳴き声が口やのどから出されるのではなく、左右の前翅^{せし}をこすり合わせて出されると見合^aつて、コオロギの耳は、前肢のすねにあたる部分にある。そこには縦に細い裂けめがあり、音波はここから奥へ入って、なかに張られたコマク^cを振動させる。その振動の大小が感覚神経で脳へ伝えられ、しかるべき行動をおこさせるのだ。

もちろん耳は左右の肢にあるから、コオロギは音がどの方向からくるかを知ることができる。メスは音源のほうへ向きをかえ、小走りに走りだす。鳴き声がやむと、メスは一、二秒で走るのをやめ、おそらくはじつと耳をこら^bして立止っている。オスがまた鳴きだすと、メスは再びそちらのほうへ進む。

なにかに魅せられたものの弱みとでもいうのだろうか、メスはオスがそこに実在しなくても声だけでその声の源へ走りよる。

オスの鳴き声を電話できかせてやると、メスは電話の受話器のところが集まってくるのだ。ミツバチのダンスことばの研究で有名なオーストリアのフォン・フリッツシュ教授は、一般向けの教科書『あなたの生物学』のなかでこの話を紹介し、その章を「コオロギの奥さん、お電話ですよ」と題している。

こうしてオスのコオロギの声を、じかに電話で聞かせたり、テープにとって流してやったりすれば、メスをユウインすることは容易である。ところが、それと同じメロディを楽器で合成して聞かしても、メスは知らん顔していることが多いのである。

この際、オスの姿や匂いがないことは問題にならない。電話でもテープでも、オスの実体がそこにはないことは同じだからである。

いろいろと研究がされた結果、コオロギでも、あるいはさらに、あの美しいメロディーで鳴くスズムシやマツムシでも、メスはオスの声のメロディーではなく、強弱のリズムをききわけているのであることが明らかになった。たとえばマツムシなら、極端にいえばなにか適当なものをたたいて、カン、カン、カンという音をきかせれば、マツムシのメスに対しては、それがあのチンチロリンという、古来日本人に賞でられた鳴き声と同じ効果をハッキするるのである。

たくさんのちがう種のコオロギがさかんに鳴いているなかから、メスはこのリズムを目印（耳印？）にして、自分と同じ種のオスのもとへ走るのである。

ア、オスの鳴き声のリズムは、気温が高いと早くなる。そして、その結果、ちがう種のリズムと同じになってしまうこともある。そこで、オスとメスをべつべつの容器に入れ、オスの入った容器のほうだけ温度をあげてやると、その種のでなく、べつの種のメスが近寄ってこようとすることもおこりうる。

自然界でこんなことになったら、どんより暑い夜には、まさに風紀の乱れどころではなく、異種間の雑交が頻発することになる。けれど自然はよくしたものである。そのようなときには、気温はメスにも同じように作用する。つまり、メスの感覚のほうのリズムも早まるので、なにも困ったことはおきないのだ。

しかし、じつはコオロギはただメスと呼ぶただけに鳴いているのではない。同じ種のコオロギでも、よくきいてみると、すくなくとも何通りかかなりちがった鳴きかたをする。ふだんわれわれが耳にしている長くひくような声は、セレナードとよばれ、

その名のとおり、遠く離れたメスに向かって、「来れ、わがもとに」と歌っている声である。対象が特定の女性でなく、不特定多数のメスであつて、そのどれがきてくれてもよいところが、^⑤由緒正しいセレナードと決定的にちがう点である。

いよいよ一ピキのメスがそばに現れると、鳴き声はずつと控え目でささやくようなラブ・コールにかわる。セレナードの最中に、よけいなオスがまぎれこんだりすると、チ、チ、チというようにはげしいライバル・ソングで追い払う。

こういういろいろな鳴き声は、^⑥翅の動かしかたのちがひによるものだが、その「楽譜」はどこにしまつてあるのだろうか？ ドイツのフーバーがこれを詳細にしらべあげた。フーバーはコオロギに脳のうちらを電気で刺激すると、場所によつてきまつた歌を歌うこと、逆に脳のうちらをこわしてみると、場所によつて特定の歌が歌えなくなることを知つた。

これだけから考えると、楽譜はやはり脳にしまわれているようにみえる。 イ、脳にはふれずに、あるいは脳の手術

といつしよに、胸の神経のかたまり（神経節）のうちらを刺激したり、こわしたりしてみた結果、楽譜そのものは、じつは胸の神経節のなかにしまわれており、脳は今どの楽譜をとりだして鳴けという指示を与えるのだということがわかつたのである。

おそらくフーバーは、コオロギを精神分析にかけた最初の人ということになる。彼に飼われたコオロギはかわいそうであつた。ぼくはその冥福を祈つて、野原のコオロギの声にしばし聞入ることにしよう。

（日高敏隆『犬のことば』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

A オンキョウ

- ①企業がテイキョウした情報
- ②友人にキンキョウを伝える
- ③キョウチョウして話す部分
- ④次は絶対にダキョウしない
- ⑤彼女はエイキョウ力がある

16

B ニンチ

- ①明日から過酷なニンムにつく
- ②私はニンジャになりたかった
- ③時局を正確にニンシキしたい
- ④子どもとニンギョウ劇を見る
- ⑤電車でニンプに座席を譲った

17

C コマク

- ①地域の祭りでタイコをたたく
- ②大きな本棚を壁にコテイする
- ③彼は入口でシンコキユウした
- ④市役所でコセキ抄本をとった
- ⑤彼女はコウコ学に興味がある

18

D ユウイン

- ①彼女はユウキある行動にでた
- ②この町に企業をユウチしよう
- ③彼にはユウシユウな弟がいる
- ④日曜日にユウエン地に行った
- ⑤ユウビン局で切手を二枚買う

19

E ハツキ

- ①姉がキタクするのは夕方だ
- ②ウキになると毎日雨が降る
- ③葉書にキネン切手を貼る
- ④文化祭運営のシキを執る
- ⑤キミョウな事件が起きた

20

問二 空欄 ・ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- ①なぜなら
- ②すなわち
- ③例えば
- ④ところで
- ⑤そのため

- ①けれど
- ②さらに
- ③ゆえに
- ④そのため
- ⑤むろん

問三 傍線部 (a) ・ (b) ・ (c) の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 「見合って」

- ①隣接して
- ②対応して
- ③拮抗してきうこうして
- ④經由して
- ⑤考慮して

(b) 「耳をこらす」

- ①聞くとはなしに聞く
- ②音を早く聞きつける
- ③聞くことに集中する
- ④何度も繰り返し聞く
- ⑤音の優劣を判断する

(c) 「由緒」

①古くから伝えられてきた伝統的なもの

②様式がそろえられた画一的なもの

③人々の心を慰める芸術的なもの

④ある場所にしかない地域的なもの

⑤ある時代にだけ使われた歴史的なもの

25

問四 傍線部(一)「オスがまた鳴きだすと、メスは再びそちらのほうへ進む」とあるが、なぜタイプの異なるコオロギのメスが、自分と同じ種のオスのほうへ進むことができるのか。理由として最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

①種によって匂いの成分が微妙に異なるから

②種によって鳴き声やリズムが異なるから

③種によってオスの形状が微妙に異なるから

④種によって鳴く時間帯が全く異なるから

26

問五 傍線部(二)「メスはオスがそこに実在しなくても声だけでその声の源へ走りよる」とあるが、実際にメスが反応するのはどの場合か。最も適当なものを、次の①～⑥から一つ選べ。

①電話で同じ種のメスの鳴き声を聞かせた場合

②鳴き声と同じリズムでカンを叩いた場合

③テープに録音した鳴き声を聞かせた場合

②別の種のコオロギの鳴き声を聞かせた場合

④鳴き声と同じ音階で楽器を演奏した場合

⑥口笛で鳴き声のメロディーを聞かせた場合

27

28

問六 傍線部(三)「コオロギはただメスを呼ぶただけに鳴いているのではない」とあるが、メスを呼ぶ以外にどのような時に鳴くと説明されているか。最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

29

- ① オスは、メスが産んだ卵を守っている時にもはげしく鳴く。
- ② オスは、人間を発見して警戒している時にもはげしく鳴く。
- ③ オスは、自分以外のオスが近くにいる時にもはげしく鳴く。
- ④ オスは、別の種のコオロギを見かけた時にもはげしく鳴く。

問七 本文の内容と一致するものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ① 数種類の歌を歌いわけるときの「楽譜」は、コオロギの脳の中にしまわれている。
- ② コオロギのメスが同種のオスを探す時には、オスの姿と匂いをその手掛かりにしている。
- ③ コオロギはオスもメスも鳴くが、繁殖のために鳴くのはオスだけでメスが鳴くことはない。
- ④ 同種のコオロギの場合、オスの鳴き声のリズムとそれを聞くメスの感覚のリズムは一致する。